

指導観、教材観、教材分析シート

4年 組 授業者

内容項目	A 正直、誠実	主題名	自分自身に対して正直に
内容項目指導の観点	過ちは素直に認め、正直に明るい心で生活すること。		

①授業者の価値観 ※ねらいとする道徳的価値（道徳の内容）について、学習指導要領に基づき明確な考えをもつ。

授業者が考える

A 正直、誠実

とは？※この1年間でこの学級の子どもたちに育てたいこと

自分自身の過ちを素直に認め、謝ることができること。
正直な心で生活することの大切さに気付くこと。

②児童観 ※授業者の明確な価値観に基づくこれまでの指導と子どもの学び、よさや課題を明確にし、本時の方向性を示す。

各教科等、さまざまな場面でこの視点で A 正直、誠実 に関わる指導をする

各教科で指導したこと	国語科の「ごんぎつね」の学習では、正直に過ちを認め、改めることの良さや難しさについて学んできた。当番活動では、日頃から誠実に仕事に取り組むように指導している。
------------	---

その結果、児童は

よさ	素直な児童が多く、注意されたことを受け止め改善しようとしている。
課題	過ちを素直に認められず、言い訳をしまったり、他者から指摘されてしまったりする児童もいる。

実態から求められること(ねらい)＝ここが授業の中心 育てたいのは、判断力、(心情)、意欲と態度

過ちは素直に認め、謝り、改めることができるようになること。

③教材観 ※授業者の明確な価値観、本時の方向性を基に、教材の活用の仕方を明らかに、教材は活用するもの

本時で扱う教材	あかいセミ
実態から教材のどこを中心に考えさせるのか。	児童を「ぼく」に自我関与させて、過ちを認め、やってしまったことを正直に言えるのかどうかを考える。 実態からどのように教材を活用するか。 本時は、 補充 (深化) 統合 をねらう。

④教材分析表 ※中心発問から前後の発問を考える

価値理解：人間としてよりよく生きる上で大切なことを理解すること。 人間理解：道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなども理解すること。

他者理解：道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方、考え方は一つではない、多様であるということを前提として理解する。

中心発問	意図(他、(人) 価値 理解)
寝ようとしても、赤い消しゴムのことが頭から離れずにいた「ぼく」はどんな気持ちだったのだろうか。	正直に言わなければいけないのに、言い出せなくて葛藤する気持ちを考えさせる。

発問	意図(他、人、(価値) 理解)
おばちゃんと「ゆびきりげんまん」をして、「ぼく」はどんな気持ちになったのだろうか。	正直に謝ったときの心のすがすがしさを感じ取れるようにする。

発問	意図(他、人、(価値) 理解)
ゆみとの約束を破り、セミの羽をちぎってしまった「ぼく」はどんな気持ちだったのだろうか。	消しゴムを盗んだことが頭から離れずにイライラしてしまう気持ちに気付かせる。

指導方法は (自我関与中心) 問題解決的 体験的

指導の工夫 構造的な板書

本時の学習課題	正直な心はなぜ大切なのだろう。
---------	-----------------